

ふみくら

No. 75

2007. 4. 25

早稲田大学図書館報



式亭三馬「人間万事虚誕計」表紙 歌川国直画

《目次》

NEXT125における「大学図書館」像2 加藤 哲夫（図書館長）	大学図書館と著作権について 10 笹渕 洋子（総務課）
「角田柳作記念文庫」（文庫27）について3 金子 昌嗣（資料管理課長）	RefWorks（文献情報管理・論文作成支援ツール） の導入 12 湯川 亜矢（情報管理課）
古典籍総合データベース公開と展覧会4 松下 真也（調査役）	香港INNOVATIVEユーザ会 定期大会参加報告 14 鈴木 努（情報管理課）
明応四年六月七日付肖柏宛宗祇書簡6 宮脇 真彦（教育・総合科学学術院教授）	図書館だより 16
中央館のハングル図書コレクションおよび WINE目録情報について8 高木 理久夫（資料管理課）	

NEXT125における「大学図書館」像

加藤 哲夫（図書館長）

早稲田大学図書館は、この10月に開館125周年を迎える。わが図書館は市島春城に始まる重厚な歴史を有するだけに、図書館員として深遠な使命を体した優秀なスタッフがここにはいる。

図書館法という、いかつい法律がある。戦後における図書館行政を規律するために昭和25年（1950年）に制定されている。ここに図書館司書の定義がある。司書とは、「図書館に置かれる専門的職員を司書及び司書補とする。司書は、図書館の専門的事務に従事する」と規定されている（第4条）。図書館法は公共図書館を念頭に置いたものだけに、ここでの規律が大学図書館にすべてが当てはまるとはいえない。しかし、図書館員が枢要な研究教育基盤を司るとしている点では、大学図書館における図書館員の職務についても、的は外れていない。

ところで、近年よくいわれることに大学図書館の「電子図書館的機能」¹⁾の推進がある。これは、高度化されたネットワークを駆使して、電子的情報資料を広く社会に提供するとともに²⁾、外部の情報資源へのアクセスを可能とする図書館機能をいう。これにより、大学図書館が大学だけの学術研究に資するにとどまらず、学術情報の集積機能と発信機能の双方を充実させるという考え方である。わが早稲田大学図書館も、スタッフの努力で学内紀要などのデジタル化事業、古典籍のデータベース化事業、機関リポジトリ構想への参加など、図書館界において先進的な役割を果たしている。

このような潮流の中、とりわけ私立大学図書館として事業を推進する上で、図書館員がそこにどのように関わるかは、ことのほか重要な課題と認識している。電子図書館としての機能が高まると、例えばレファレンスひとつをとってみてもサイバー上のライブ・レファレンスが主流になってくる³⁾。そこでは、検索技術の専門性を所与の前提として、研究対象の高度化・学際化に対応した個別の学術分野における主題専門性の要求が高くなってくると考えられるからである。ここにひとつの

ポイントがある。学術成果の国際的発信をはじめとして大学図書館の機能が多様な形で高度化してくると、図書館員のもつ知的基盤の広さと深さがいっそう重要になってくる。

加えて、大学図書館の果たすべき役割には教育機関としてのそれがある。学生の「読書離れ」がいわれて久しい⁴⁾。大局的にいえば、大学がこのような風潮を打破して、受験期に置き忘れてきた人間としての感性の豊かさを学生に取り戻させようとするれば、そこでの大学図書館の先導的な役割は大きい。電子図書館的機能への流れを加速させる過程で、ここ早稲田の学園にあってその先に、新たな機能を駆使しつつ情報リテラシー教育を含む教育支援の役割をよりいっそう積極的に担う大学図書館像、その図書館員像をあらためて考えてみたくなった⁵⁾。

知的資源、学術資源の宝庫に尽きる大学図書館には、図書館、図書館員が学生の来館やアクセスを待つだけではなく、こちらからいっそう積極的に仕掛けていくやり方があってよい。それは、「学生（利用者）に顔の見える図書館、図書館員」像⁶⁾の実現にほかならない。NEXT125を見据えて、館長に就任するに至った折りの夢である。



¹⁾ 平成8年7月学術審議会答申『大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化』2頁（1996年）。

²⁾ 電子ジャーナルの普及が図書館の電子図書館的機能の促進に貢献している。この点につき、逸村裕＝竹内比呂也編『変わりゆく大学図書館』127頁以下、とりわけ131頁（蔵野由美子＝中元誠執筆）（2005年）。

³⁾ デジタル・レファレンスの方向性につき、逸村＝竹内編・前掲書115頁以下、特に116頁（齊藤泰則執筆）（2005年）。図書館員のこのような専門性を説くものとして、高山正也「新たな司書養成提案にみる大学図書館員養成についての課題」図書館雑誌100巻10号671頁（2006年）。

⁴⁾ 興味ある最近の指摘として、竹内洋「東大・京大との分断化を決定づける「これでいいのだ文化」」中央公論07年2月号41頁。

⁵⁾ フェリス女学院大学における最近の読書運動プロジェクト「フェリスの一冊の本」につき、朝日新聞06年10月29日付朝刊第2部参照。

「角田柳作記念文庫」(文庫27)について

金子 昌嗣(資料管理課長)

本誌No.74で既報のように(松下真也「『角田柳作展』について」) 創立125周年記念事業の一環として、図書館では角田柳作(1877-1964)の生涯と業績を顕彰する企画を準備している。すなわち、シンポジウム、展覧会、そして文庫の創設である(シンポジウムは10月30日、展覧会は10月20日～11月30日開催の予定)。このうち文庫については準備がほぼ整った。秋のイベントにあわせて公開の運びとなるが、その概要について紹介する(中央図書館地下1階研究書庫に配架予定。公開については、図書館ホームページ等であらためてお知らせします)。

角田柳作旧蔵書の本学への寄贈は、甲斐美和さんのご尽力により進められた。甲斐さんは、第二次大戦の末期からコロンビア大学で日本語資料担当の司書として活躍された。角田のもとで同大学の日本語資料収集に尽力し、米国でも有数の東アジアコレクションの礎を築いた(角田や甲斐さんの活動を含め、米国図書館における日本語蔵書の克明な歴史が、次の新刊書にまとめられている。和田敦彦『書物の日米関係：リテラシー史に向けて』新曜社、2007年2月)。角田没後にその個人蔵書の管理をまかされ、彼の母校である本学への寄贈について、早くも1966年ごろには当時の大浜信泉総長と書面でのやりとりがなされていた。実際の受贈がいつから始まったか、確たる記録は残っていないが、第一便は総長室に届けられたという。その後もご寄贈は続き、受領分の中には通常の寄贈書扱いで整理して書庫に収めたものもあったが、大部分は処理待ち資料として蓄積されていた。

甲斐さんからの寄贈は、近年も年数度(1回20～30冊ほど)というペースでほぼ絶えることなく続いた。そして2006年4月、図書館に届いた荷札には「最終」の文字が記されていた。受贈資料は1371冊(洋書1130、和書241)に及んでいる。なお、

研究書庫配架ずみのものも再整理して文庫に一括した。昨年5月、角田関連企画についての協力依頼のため、紙屋前館長ほか関係者(松下、中元)がコロンビア大学を訪れた際、甲斐さんにもお会いした。長年のご尽力へのお礼を述べるとともに、それが文庫設置に結実することを(文通ではすでにお知らせしていたが、あらためて)報告した。甲斐さんは大層のお喜びだったそうである。

角田旧蔵書の一部は、ご令嬢の星野富士子さんにも引き継がれていた(洋書129冊)。それについても星野さんのご快諾を得て、文庫に一括することができた。その結果、記念文庫は総計1450冊を数えるに至った。

文庫の特徴について簡単に触れると、ハワイ時代を含め55年に及ぶ滞米生活を反映して、英書が多い。いわゆる希覯本の類は見られず、角田が自身の研鑽や教育研究に用いたと思われる図書群である。主題としては、米国を中心とした欧米文化全般(歴史、文学、哲学等)にかかわるものが多い。また他方で、和書を含め日本文化関連の書籍も相当の量にのぼり、コロンビアでの日本学教育に活用したものと推察される。書き込みがなされた図書や、献呈本(ドナルド・キーンや暉峻康隆のサイン入りなど)もちろほら見られる。本に挟み込まれたメモ等も多少あり、それらについては文庫とは別に、特別資料室で保管、別途の利用に供することになる。

以上、角田柳作記念文庫の経緯と概略を紹介したが、もとより不十分なスケッチでしかない。興味を持たれた研究者・学生のみなさんには、公開後ぜひ直接研究書庫に足を運んで現物をお確かめいただきたい。最後になったが、本文庫生みの親である甲斐さんと、角田先生ご令嬢星野さんが、ともにご健勝でいらっしゃることを祝し、あらためて深く謝意を表したい。

古典籍総合データベース公開と展覧会

松下 眞也（調査役）

早稲田大学図書館の「古典籍総合データベース」構築事業は、5年計画のうち2年度を終了し、おおむね順調に推移している。

2007年3月14日現在で、全体の約28万冊の3分の1弱にあたる約8万冊(書誌件数約26,000件)の書誌データ作成を終え、撮影累計は約120万カットに達している。分野としては、自然科学(理学、工学、医学など)、文学、語学、社会、法律、政治、経済などの分類をほぼ終え、稀覯資料の多い特殊コレクションである「洋学文庫」、「曲亭叢書」、「西垣文庫」も終わって、現在、「芸術」の分類の貴重書にかかっているところである。

上記分野のうち、まだ書誌データの点検が終わらないもの、撮影が終了していないもの、画像データと書誌データのマッチングがされていない部分もかなりあり、現在その分類のすべての古典籍資料が画面にあらわれているわけではないが、順次反映されてくるであろう。このほかに古典籍とは一応別枠として、「大隈文書」の書誌データ入力が終了しており、撮影も急ピッチで進められている。

2007年度は、歴史、伝記に属する資料を中心に、「荻野研究室収集文書」をはじめいくつかの特殊文庫・コレクションの入力を予定している。

当データベースは関係各方面からも認知され、期待の声が寄せられている。筆者は、2006年6月に、依頼を受けて国立国会図書館において本データベースの構築につき講演をおこなったが、100名ちかい聴衆が集まり、講演後の質問も多く、また関西館へも同時中継されるなど、なみなみならぬ関心がうかがわれた。また同年11月には、カリフォルニア大学バークレー校東アジア図書館の石松久幸氏が来校して、同校で構築する三井文庫旧蔵日本古地図のデジタル化について講演し、そのあと筆者が、本データベース化プロジェクトの現況について報告するという「国際シンポジウム」も行われた。ほかにも、国内外の種々の機関からの問い合わせが相次いでいる。

これまで、貴重書庫、古書資料書庫に保管され

たまま、事実上、死蔵といってもよい状態にあったあまたの古書・貴重書が、一点一点手にとってひらかれ、原本から採録された書誌データによって新たにWINEに登録され、一丁(見開き)ずつ撮影された全文の精細画像が書誌データにリンクされる。図書館にとっても、資料にとっても画期的なことが、いまま日々超スピードで進められているのである。

2005年12月に、「洋学文庫」を中心として最初に本データベースを公開した際、記念として、主要な洋学資料を出陳して展覧会を開催し、好評を得た。本年度も展示部会とタイアップする形で、いくつかの記念展覧会を催したので、ここでは、それをあわせて以下に報告したい。

双六 近代日本の人生ゲーム

会期 2006.10.20(金)~11.21(火)

会場 総合学術情報センター展示室

忘れられた遊び「すごろく」に焦点をあて、幕末から明治、大正、昭和初期にかけて時代の雰囲気をつたえる「絵双六」約40点を出品。なお出品資料を含む館蔵の双六全品は既に書誌データ、画像データとも完成し、古典籍総合データベースに入っている。Googleからも容易に検索され外部からの問い合わせも多い。

「なつかしい」という高齢の観覧者ばかりでな



少女思ひ出すごろく



八犬伝狗之草紙（双六）

く、学生からも「絵がかわいい」「色がきれい」「当時の遊びはいまとちがうが面白い」などの感想が寄せられ、きわめて好評だった。

古典籍総合データベース公開記念

曲亭馬琴と江戸の文人たち

会期 2007.1.25（木）～2.28（水）

会場 総合学術情報センター展示室

古典籍総合データベース「文学」の部のデータ公開（2006.11～）を記念して開催。早稲田大学図書館のひとつの特徴ともなっている江戸文学の資料を展示した。とくに「曲亭叢書」は、饗庭篁村が馬琴の遺族より入手したものを、坪内逍遙が当時の市島春城図書館長にすすめて買い取らせたも



南総里見八犬伝原稿

ので、名高い『南総里見八犬伝』第九輯末尾の、馬琴失明後の口授原稿部分を含む貴重なものである。早稲田ならではの贅沢な展示で、一ヶ月間以上開催したにもかかわらずまだ延長を望む声もあり、好評であった。なおこの会場内に端末を設置し、展覧会を見ながら古典籍総合データベースを検索できるようにしたがこれも好評を得た。

早稲田大学創立125周年記念

早稲田ゆかりの人々 田中光顕

会期 2007.3.23（金）～5.10（木）

会場 総合学術情報センター展示室

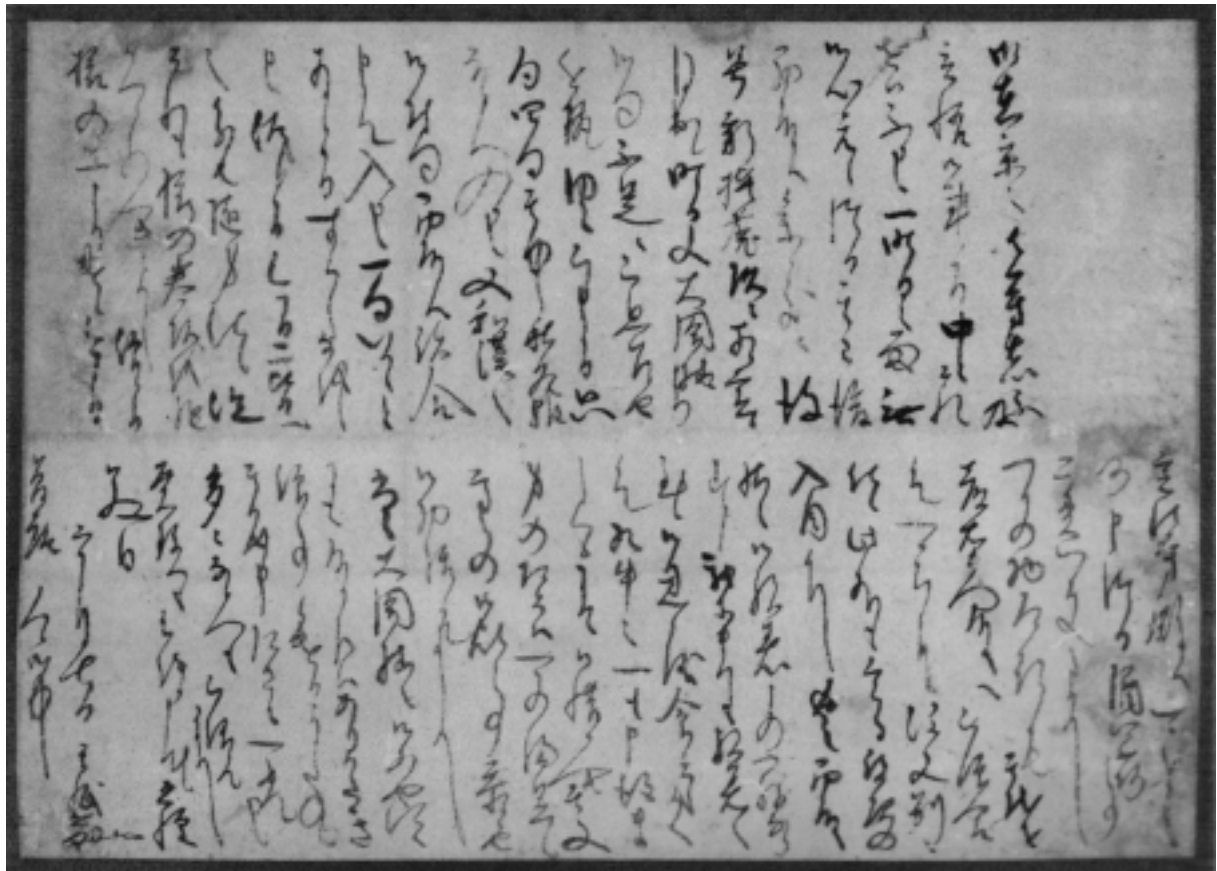
早稲田大学に2点の国宝、1件の重要文化財、さらに、それらに勝るとも劣らぬ貴重な維新の志士たちの墨蹟約180点を寄贈した、校賓第一号である伯爵田中光顕（1843-1939）についての展覧会。国宝『礼記子本疏義』一卷（唐代写本）同『玉篇』一卷（唐代写本）重要文化財『東大寺薬師院文書』（天平時代古文書）といった貴重な文化財を、幕末維新に奔走した志士たちの遺墨が囲む。全期間、国宝・重文はレプリカでなく原本を展示する。日・祝日以外午後六時まで。



田中光顕肖像（部分）島田墨仙画
絹本彩色 1軸 子3 - 3535 - 154

明応四年六月七日付肖柏宛宗祇書簡

宮脇 真彦（教育・総合科学学術院教授）



御在京之御芳志、不及ノ言語御事候間、中々それノ
をば不申候。一昨日之雨、無ノ御心元候つる。其已
後ノ西殿へ参候処ニ、彼ノ号「新撰菟玖」ニ相定
候。ノ目出候。昨日又太閤様より、ノ御句不足ニ被思
召由、ノ進筑内々被申候間、只ノ句四句、其中秋冬
雜ノならべ入申候。又和漢之ノ御付句西殿へ談合ノ申
候て、入申候。一句いかゞとノ存候間、すこしなを
しノ申候。佐候間、今日二皆へノ之分は隨身仕候。
況ノそれも旅の巻頭を遊ノかへられべきよし仰せ候
間、ノ旅の二より遣候。今日ノ定法寺殿へ可進候。ノ
仍申つる酒四荷之事、ノ二貫八文たるべく候。ノつり
の物道行候ば、其代をノ藤右衛門殿へ被仰合ノ候て可
被下候。注文別ニノ仕候。此外も定而路次ノノ入目被
下候。返々西殿ノ様之御祝着よのつねならノす候。我
等までも祝着之ノ至候。御恩之儀、命言之かくノ候て、
九牛之一も申得まノじく候にて、口惜候へ共、是又ノ
身のためは可為満足候。ノ方々ノ御煩事忝候由、ノ御
物語にて候べく候。ノ尚々、太閤様之御あやにくノに
も、殿下はありがたきノ仰事候けるよし承候。ノきか
せ申たさに一ふで申候。ノ多々などへも被仰候て可被
下候。ノ堯珍へも言伝申出候。恐惶ノ敬白。

六月七日

宗祇（花押）

夢庵 人々御中

（縦三三・〇センチ×横四六・七センチ）

連歌は、中世に花開いた詩歌で、複数の作者が一堂に会して、長句（五七五）と短句（七七）とを交互に付け連ねてゆく共同制作の詩である。やがてこの詩形式は俳諧に展開し、現代の俳句にまで継承されている。その作品は多く百韻（100句のまとまり）で残っているが、和歌に倣い、百韻から前句・付句のみを切り取って編んだ付句集の形もある。連歌の代表的な撰集は、主としてこの付句集の形態をとっている。

本書簡で話題となっている『新撰菟玖波集』は、14世紀中葉に成立した連歌の准勅撰集『菟玖波集』を受け継ぐ連歌第二の准勅撰集（ともにこの付句集を主とした撰集）。当時、正風連歌の完成期にあった15世紀後半の連歌を伝える一大撰集である。『新撰菟玖波集』は、三条西実隆の支援のもと、宗祇を中心に編集が進められ、これに二階堂行二、兼載や宗祇門の肖柏・宗長らが協力した。序文と准勅撰論旨の日付は明応4年（1495）6月20日、実際の成立は9月である。

本書簡は、連歌撰集の題号が『新撰菟玖波集』と決定したことや、編集経過を記した内容からいって、『新撰菟玖波集』の成立する明応4年と知られる。字体はやや崩れているが、以下述べるように内容的に実際の動静と一致する点、また署名、花押に徴して宗祇の自筆としてよからう。

本書簡の宛名「夢庵」は肖柏。肖柏は5月3日に、摂津池田から上洛して1ヶ月ほど滞在した。5月といえば、4月15日から具体的に編集作業が始まった草案本の完成に向けて、種玉庵（宗祇の京都の住居）で最後の追い込み作業をしている時期に当たる。すなわち5月9日発句の部上下の編集完了、14日入集の自薦締切、18日発句の編集に関して兼載と宗祇が対立、20日兼載を説得、6月2日草案本完成となる。その様子は、宗祇を支援して『新撰菟玖波集』の編纂に深く関わった三条西実隆の日記『実隆公記』に詳しい。

この間肖柏は、宗祇を助けて編纂に従事し、実隆邸へも度々宗祇とともに来訪している。草案本が完成した翌日、6月3日も宗祇とともに実隆邸にて、中書本（草案本の清書本のこと）の清書担当を相談した。草案本の完成を見、後は中書本の清書を依頼するまでになった翌6月5日、肖柏は池田に帰っていった。本書簡は、その後の動静を

伝えたもの。「御在京之御芳志、不及言語…」とは通り一遍の挨拶というのでは決していない。

まず報じているのは題号のことである。宗祇は、5日「西殿」（三条西実隆）邸で『新撰菟玖波集』が一条冬良の承認を得たことを知る。題号について宗祇等は、6月3日に実隆から冬良と撰集の題号について問答した子細を聞いている。翌4日に、実隆・宗祇・肖柏の3人で題号を協議、『新撰菟玖波集』を実隆案として冬良にはかったのだった。宗祇は『菟玖波集』を文字通り継承するこの題号を称賛している。

「昨日又太閤様より御句不足に…」以下は、草案本が完成したこの時期に、異例のクレームが付いたことを報じた部分である。「太閤」は近衛政家。完成本での入集句は26句で、大臣クラスでは、前左大臣（西園寺実遠）28句に次ぎ、太政大臣（一条冬良）と同句数。草案本の段階では22句だったのである。それに不満を持てのクレームである。また、完成本では、巻11「羈旅連歌上」の巻頭句が近衛政家であるが、この巻頭句に差し替える意向も届いた。宗祇はそれらの対処を速やかに済ませ、清書担当の「二皆」（二階堂行二、巻十一～十七担当）、「定法寺」（公助僧正、巻一～十担当）にそれぞれ訂正を伝えたことを記している。

本来、このような自身の句の入集に関する希望は前月14日をもって締め切っていたはずである。その上この時期は、中書本の清書発注が6日になされ、8日には兼載が自身の担当分（巻十八～二十）の清書を早々に仕上げている。他も6月21日までには完成している。その慌ただしいスケジュールの中でのクレームである。丁寧に対処したとはいえ、さぞかし苦々しいことではなかったか。下段に、草案本の出来、題号決定を祝う文言に続けて、「九牛之一（毛、脱力）も申得まじく候にて、口惜…」とあるのは、大事の前の小事と割り切って対処した宗祇の実感を記した文言であつたろう。おそらくは、弟子への親しさが、太閤のルール違反に対する、ことさらかような憤懣押さえがたい口吻を誘い出してしまったのではないかと推測している。

なお、解説すべき点が多いが、紙面が尽きた。詳細は、別の機会に譲ることとして、新収の宗祇書簡の資料としての価値を紹介した次第である。

中央館のハングル図書コレクションおよびWINE目録情報について

高木 理久夫（資料管理課）

1．中央館のハングル図書コレクションについて

現在、中央館の研究書庫には、近代以降に出版されたハングル図書、約1万3千冊が収蔵されています。中国語図書と同様に、ハングル図書も「ハングル図書コーナー」として独立して配架されています。このようにハングル図書をひとつのコレクションとして所蔵している大学図書館は、日本国内に皆無とは言わないまでも稀有であると思われます。

限られた予算内で、後世に伝えていく価値のある資料をどれだけ収集できるかが、図書館としての真価が問われるところです。韓半島に関する人文、社会科学分野の研究で基礎的資料となるのが地方誌と族譜です。当館では、ハングル図書コレクションの柱として地方誌と族譜の収集に力をそそいできました。特に地方誌に関しては、かなり網羅的に収集がされてきていると思います。次頁表は、2002年度までに収集された地方誌を、行政区別にまとめたものです。すでにこの時点で、286タイトル406冊であり、2006年度においては、タイトル数だけで4百以上、冊数は約6百冊ほどになります。

今後ともこのコレクションを大いに充実させていけるように、努めていきたいと思います。

2．WINE目録データの現況とカード目録作成停止

近年、コンピュータにおける文字コード処理技術の進展により、遅ればせながら、ハングル図書についても、他の外国語図書と同様に、WINEにおける検索が可能となりました。

新規受入図書については、すでに2006年4月分から、データ入力が順調におこなわれています。

約1万3千冊のハングル図書のうち約6千冊の目録データが、すでにWINEに入力されており、今後も引き続き目録データの遡及入力作業を、2008年5月末日までの完了をめざしておこなっています。したがって2007年4月からは、従来のカード目録の作成を停止しました。

3．WINEにおけるハングル図書の検索方法

ハングル図書について書名検索等をする場合、検索語は、日本語図書の場合と同様に、その書名の表記どおりに入力します。すなわち漢字だけで表記されているものについては漢字で、ハングルだけで表記されているものについてはハングルで、漢字とハングルが混じっているものについては、混じったタイトルどおりに検索語を入力します。

2007年4月現在、図書館の利用者端末機において、ハングルを入力し、タイトル検索をする場合の手順は、以下のとおりです。

- 1．「多言語版WINE」を選ぶ。
- 2．「タイトル検索」をクリック。
- 3．画面右下にある「Microsoft IME 2000 (Japanese)」をクリックする。
- 4．IMEの一覧から「Microsoft ハングル入力設定」をクリックする。
- 5．入力設定が「A - 漢」と表示されたら、「A」の部分をクリックします。するとハングルの記号が出てきます。これでハングルの文字入力が可能になります。

以上の操作でキーボードは、たとえばDのキーはハングル文字の”ㅇ”、Tのキーは”ㅌ”と、ハングルの文字が割り当てられた状態になります。

4．今後に向けて

前述したように中央館のハングル図書コレクションは、地方誌や族譜等について、国内でも有数の規模を誇るものとなりつつあります。WINEへのデータ入力の進展は、全世界へ向けての所蔵データの発信につながります。また、何よりも学内のアジア学研究に携わる皆様方に、より一層、コレクションを活用していただけるようになることを願ってやみません。

○中央館所蔵 行政区別韓半島地方誌数一覧

行政区名	タイトル数	冊数	行政区名	タイトル数	冊数
서울特別市	2 1	3 3	全羅南道	3 1	6 4
釜山廣域市	6	1 2	慶尚北道	2 2	3 4
大邱廣域市	3	8	慶尚南道	2 2	2 6
仁川廣域市	6	8	済州道	5	7
光州廣域市	3	6	黄海道	1 7	1 7
大田廣域市	1	4	平安南道	1 3	1 3
蔚山廣域市	3	9	平安北道	1 0	1 0
京畿道	3 2	4 8	咸鏡南道	1 5	1 5
江原道	2 2	2 8	咸鏡北道	6	6
忠清北道	1 5	2 0	京畿道(北朝鮮)	1	1
忠清南道	1 7	2 2	江原道(北朝鮮)	1	1
全羅北道	1 4	1 4	合計	2 8 6	4 0 6

*『中国語図書・ハングル図書目録15』(早稲田大学図書館2003年7月刊)所載「中央図書館所蔵 韓半島地方誌リスト」に拠り作成。

写真1. 地下1階研究書庫内ハングル図書コーナーに地方誌が配架されている様子。



写真2. 業務用キーボードにハングル・キーボード・シール(市販品)を貼付した様子。より迅速な入力を可能にするため。



大学図書館と著作権について

笹 渕 洋 子（総務課）

はじめに

大学図書館では、2002年に国公立大学図書館協力委員会（以下、協力委員会）に専門委員会のひとつとして設置された「大学図書館著作権検討委員会」（以下、著作権検討委員会）さらにその下に「著作権問題拡大ワーキンググループ」（以下、WG）が組織され、大学図書館における、主に資料の複製を中心とする著作権に関する諸問題に取り組んできた。早稲田大学図書館は当初から著作権検討委員会の委員に1名、およびWGにも継続的に2名が参加してきている。

以下にこれまでの活動と著作権をめぐる動きについて紹介する。

図書館内のセルフ式コピー機による複製について

大学図書館では著作権法第31条1号における権利制限によって、利用者の求めに応じ調査研究の用に供するために、公表された著作物の一部分（発行後相当期間を経過した定期刊行物に掲載された個々の著作物にあっては、その全部）の複製物を一人につき一部提供することが認められている。

ただし1987年に発足した著作権集中処理機構設立準備委員会の最終報告では、著作権法31条による複製の範囲などは、集中的権利処理機構と図書館との間でガイドラインを設定する形で煮詰めるべき事項とされ、その後1991年に設立した日本複写権センターから示されたガイドライン案では、利用者自身によるセルフコピーや図書館間相互協力（以下、ILL）における複製は著作権法31条で認められる複製の範囲を超えているとされた。

大学図書館側はこの考え方に反対し、その後10年以上にわたり断続的に協議を続けてきた結果、2002年12月に「大学図書館における文献複写に関する実務要項」（以下、実務要項）が確定した。これはコインやカードによるセルフ式コピー機の運用における大学図書館側の指針を示したもので、本学図書館でも広報のポスターを掲示するなどして著作権尊重の重要性を周知してきた。

「大学図書館における著作権問題Q & A」の作成について

著作権検討委員会では、日本複写権センターとの協議中から具体的課題を「アクションプラン」として取り上げ対応に取り組んできた。

先程触れたポスターの作成も取り組みの一つであるが、最も大きな成果の一つとしては「大学図書館における著作権問題Q&A」（以下、Q&A）がある。これは大学図書館の日々の利用者サービスの中で問題となりうる事例を、図書館の現場で働くWGのメンバーが集めて作成したもので、2002年2月のWeb上での公開後、新しい動きに応じて改訂を重ね、2006年3月には第5版を公開している。先の実務要項やこの後紹介する許諾契約、ガイドライン等の内容も附録として掲載されているのでご参照いただきたい。

(http://www.soc.nii.ac.jp/anul/jj/documents/coop/copyrightQA_v5.pdf)

当事者間協議の動きについて

2002年より文化庁の裁定により当事者間の検討が開始され、現在も「図書館等における著作物等の利用に関する当事者協議会」として継続されている。図書館側からは日本図書館協会・公共図書館・専門図書館・学校図書館ならびに大学図書館の団体の代表者が参加し、出版団体・著作者団体・著作権処理団体などからなる権利者側参加者と、著作権に関する諸問題について継続的に協議をおこなってきている。

「大学図書館間協力における資料複製に関する利用許諾」の契約について

ILLにおける複製については、日本複写権センターとの「実務要項」の検討では保留事項とされていたが、大学図書館では学术论文のコピーをILLにより利用者に提供することが重要なサービスの一つとなっている。また迅速性を増すためILLにFAXを使用することの要望も従来より強かったが、著

著作権法の公衆送信権により認められていなかった。

これについて文化審議会著作権分科会でも検討されたが法改正には至らなかったため、2003年7月より、以前から一定の合意を示していた権利者二団体と協力委員会との間で、実施のための具体的な協議が開始された。

協議の結果翌2004年3月に、日本著作権出版管理システムおよび学術著作権協会と、「大学図書館間協力における資料複製に関する利用許諾」の契約を締結し、あわせて協力委員会では運用のための「大学図書館間協力における資料複製に関するガイドライン」を制定した。

このガイドラインでは、大学図書館間で文献複製物をFAX送信、インターネット送信（電子メール添付を含む）することについて無償で許諾されるが、利用者には紙面に再生された複製物のみを渡し、中間複製物は必ず破棄すること、一定以上の利用があった資料については購入努力義務を負うことなどが定められている。

この契約はその後学術著作権協会とは合意書の形式に変更した上で、各団体と毎年継続を確認している。

「図書館間協力における現物貸借で借り受けた図書の複製に関するガイドライン」、「複製物の写り込みに関するガイドライン」について

当事者間協議での検討を経て、2006年1月に二つのガイドラインが、日本図書館協会、全国公共図書館協議会、協力委員会の三団体により制定された。

一つ目は「図書館間協力における現物貸借で借り受けた図書の複製に関するガイドライン」である。

著作権法31条による複製が認められるのはその図書館が所蔵する図書館資料と考えられるため、他の図書館からILLで借り受けた資料の複製は31条の範囲外と考えられる。しかし貸出館にあらためて複製を依頼するのであれば、利用者に複製物が届くという意味で結果は同じで、権利者の利益が大きく侵害されるとは考えられないため、一定の条件の下に借り受け図書館でも複製を認めることとしたものである。

このガイドラインの制定を受け本学中央図書館

においても、貸出館が許可する場合には、4階複写マイクロ資料室でのオペレーターコピーによる複製物の提供を認めている。

二つ目は「複製物の写り込みに関するガイドライン」である。

事典の一項目や短歌・俳句など全体の分量が少ない著作物は、著作権法31条の「著作物の一部分」を厳密に遵守しようとすれば、一部分以外の部分を遮蔽等により複製紙面から削除する必要があるが、現実的には運用は困難である。そのため、著作権者の経済的利益を尊重した上で同一紙面に写り込むものは部分遮蔽しなくてもよいとするガイドラインである。ただし楽譜・地図・写真集・画集・雑誌の最新号などは対象外となっている。

これら二つのガイドラインにはそれぞれに対応するQ&Aも作成し、関係図書館に配布されている。

終わりに

図書館を取り巻く環境は大きく変化し続けており、著作権をめぐる課題も尽きることはない。今後も著作権検討委員会では法改正の動きを見守ると同時に、法改正のみによらず柔軟に問題に対応していく姿勢が求められている。



RefWorks（文献情報管理・論文作成支援ツール）の導入

湯川 亜矢（情報管理課）

2006年6月より、Webベースの文献情報管理・論文作成支援ツール「RefWorks」のサービスを開始しました。

1. RefWorksとは

RefWorksは、文献情報の収集・管理と、収集した文献を利用した論文作成を支援するツールです。

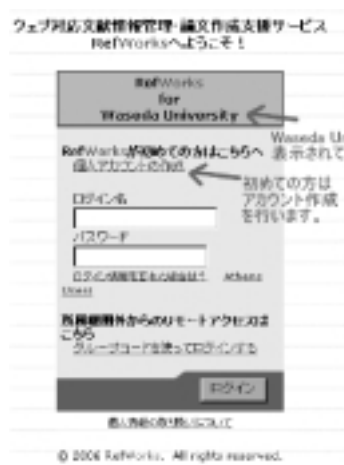
図書館の蔵書検索システムや各種文献データベースから収集した文献情報をRefWorksのサーバー上で保管・管理し、自分だけの文献データベースを構築することができます。

登録したデータを使い、指定したフォーマットで参考文献リストを自動作成する機能も備えており、文献調査や論文・レポート作成はもちろんのこと、引用のルールや、論文・レポート作成方法を学生に指導する際にもご活用いただけます。

2. RefWorksへのログイン

RefWorksの一番の特徴は、Webベースのサービスであるということです。早稲田大学に在籍する教職員・学生は、特別なソフトウェアをインストールしたり、個人で費用を負担したりすることなく、誰でも自由に利用することができます。

RefWorksログイン画面



初めて利用する際には、まず大学のネットワークに接続したコンピュータから、個人アカウントを作成します。インターネットに接続したコンピュータとWebブラウザがあれば、次回からは作成したアカウントを利用して、自宅など、どこからでもアクセスできます。

アカウント作成やログインの方法など、RefWorksの詳しい利用方法は、図書館「学術情報検索」のRefWorksログイン画面¹⁾をご覧ください。

3. 蔵書検索システムWINEからの取り込み

RefWorksでは、図書館の蔵書検索システムWINE²⁾の検索結果を簡単に取り込むことができます。検索結果の詳細表示画面に表示される「RefWorks」ボタンをクリックすると、書誌情報が取り込まれます。

WINEからの取り込み



4. 文献データベースからの取り込み

WINEの他にもさまざまな文献データベースから検索結果をRefWorksに取り込むことができます。取り込みの方式には、1)ダイレクト・インボ

¹⁾ <http://www.wul.waseda.ac.jp/imas/refworks/>

²⁾ <http://wine.wul.waseda.ac.jp/>

ート（検索結果をRefWorksに直接取り込む）と、2)フィルターによるインポート（検索結果をいったんテキスト形式などで保存し、それをRefWorks上のフィルターで変換して取り込む）があります。主な対応データベースは以下のとおりです。

ダイレクト・インポート：

- ・ CiNii（国立情報学研究所）
- ・ ABI/INFORM（ProQuest）
- ・ CSA Illumina
- ・ EBSCOhost、Business Source Complete（EBSCO）
- ・ FirstSearch、NetLibrary（OCLC）
- ・ Google Scholar
- ・ ScienceDirect、Scopus（Elsevier）など

フィルターによるインポート：

- ・ JDreamII（科学技術振興機構）
- ・ CNKI中国学術情報データベース
- ・ ACS Publications
- ・ Web of Science（Thomson）
- ・ Wiley InterScience など

5. 参考文献リストの作成

登録したデータを利用して、参考文献リストを作成することもできます。RefWorksにはMLAやAPAなどの標準的なスタイルや、主要な雑誌の投稿規程にそったフォーマットがあらかじめ登録されています。

既存のフォーマットを編集して、独自のフォーマットを作成することや、学内で共有することもできます。例えば、卒業論文・修士論文用に指定されたフォーマットを登録しておく、紀要の投稿規程にそったフォーマットを登録し、学内で共有するといった利用方法が考えられます。

また、Write-N-Citeというプラグインソフトをインストールすると、Microsoft Wordで論文を執筆しながら、文中での引用や、参考文献リストの作成が簡単にできます。引用のルール、参考文献リストの書き方について学生に指導する際にも、最適なツールです。

6. オンライン・チュートリアル作成

RefWorksの広報の一環として、2006年11月に「RefWorks入門」（日本語版・英語版）³⁾と題したオンライン・チュートリアルを公開しました。

この「RefWorks入門」は、遠隔教育センターで開発しているオンデマンド授業作成システムを利用し、早稲田大学ラーニングスクエアの協力を得て作成したものです。講義の映像とスライドが連動して表示されるオンデマンド形式のコンテンツとなっており、「いつでも」「どこからでも」「繰り返し」見ることができるのが特徴です。講師は、日本語版をRefWorksの指定販売代理店であるサンメディア、英語版を提供元であるRefWorksに依頼しました。

内容は、RefWorksの概要、ログイン方法、データのインポート、データの管理、参考文献作成など、RefWorksを初めて使う方に、基本的な使い方を解説したものとなっています。

「RefWorks入門」



図書館ではこれまでも各館で新入生オリエンテーション、情報検索講習会などを企画・開催し、情報リテラシー支援への取り組みを行ってきましたが、2006年度からは、「情報リテラシー業務」が図書館情報管理課の業務に正式に追加されました。今後は、必要な時に、必要なコンテンツを、より多くの方にご利用いただけるよう、インターネットを活用したオンデマンドの支援を充実させていきたいと考えています。この「RefWorks入門」の作成も、そうした取り組みのひとつです。RefWorksとともに、授業の中でもご活用いただければ幸いです。

³⁾ <http://wul.waseda.ac.jp/imas/guide/tutorial.html>

香港INNOVATIVEユーザ会 定期大会参加報告

鈴木 努（情報管理課）

2006年暮、香港INNOVATIVEユーザ会（HKIUG：Hong Kong Innovative Users Group）の第七回年次大会（7th Annual Meeting）に参加した。本稿ではその概要を報告する。

■ 香港INNOVATIVEユーザ会とは？

早稲田大学図書館が提供している「WINE」システムは、本学所蔵資料の目録情報を提供するなど、教育研究活動の基盤をなすシステムである。1998年に更新した現在のWINEのベースになっているのは、米国製の図書館総合システムINNOPACである。この製品は、世界中で約1,000以上の図書館によって利用されている。INNOPACは米国のInnovative Interfaces, Inc.（以下、III社）が開発/販売しており、世界各地で地域別・館種別などのユーザ会が発足している。そのユーザ会の1つであるHKIUGは、香港およびマカオ内の15教育機関（主に大学図書館）によるグループで、1996年から活動している。

■ 年次大会

年次大会の開催は、今年で7回目である。ユーザ会が誕生してちょうど10周年ということで記念大会となった。広東語圏であるにもかかわらず香港の大学では、歴史的事情などから、英語が幅広く通用する。図書館員が集まるこの会議も、発表・討議など基本的にすべて英語で行われる。ユーザ側からのシステム改善要求や、開発側からの情報提供、ユーザ間での情報共有などのため、活発な討論が行われる。早稲田大学は香港で高い知名度を誇っているが、近隣のユーザとして毎年、HKIUGから会議参加の招待を頂いている。そのことにより、本学は初回から参加者を派遣し、事例発表等（過去3回）も積極的に行ってきた。その結果として今回本学は、「最も協力的な海外の機関賞」を受賞することになった。

■ 会議の概要

日程：2006年12月11日～12月12日（二日間）

会場：香港科技大学

参加人数：約200名

参加地域：香港特別行政区、中国、タイ、日本、フィリピン、米国

■ 施設

香港科技大学は、香港の大陸側東端に位置し、海岸から続く丘にキャンパスが建てられている。図書館から海が一望できる（！）すばらしいキャンパスであった。徒歩圏に地下鉄の駅は無いが、九龍半島中心からバスで一時間かからない程である。

■ 主な内容（参加者による発表、得た情報）

Encore（次世代型情報検索システム）

Encoreとは現在III社にて開発が進められている次世代型の情報検索システムの名称である。既存のOPACだけでは現在のユーザは満足していないという視点に立ち、様々なWEB技術（ソーシャルタギングやレイティング、横断検索など）を取り入れ、現在のOPACの枠組みを越えた情報検索システムを開発している。その中間報告として発表があった。現在、アジア地域で開発パートナーとなる大学を探しているとのことだった。

データベースのUnicode化問題

現在香港のCJKタスクフォースでは、UnicodeベースのInnopacでバグ出しの作業を行っている。それらの解消を待ってから、順次Unicodeへのコンバートを進める予定である。（更に本学では、香港ユーザの成功を待ってから、我々もコンバートを進めたいと伝えた。）また、CJK以外でも文字コードに関する問題が多いことが分かった。タイのユーザもCJKユーザ以上に文字コード関連で苦労しているとのことだった。

電子ブックの提供方法

電子ブック（ebook）を購入する館が増えてきたが、その提供や管理に苦労していることが多い。

香港城市大学では、図書館システムに電子ブックの書誌データを登録する前に重複除去するためにプログラムを組むなどして対応している。

Web2.0的な取り組み

Web2.0的な取り組みも幾つか報告され、OPAC群内の特定コレクションに対する横断検索や、LibX（Firefoxブラウザの拡張機能）を用いた新たな情報検索支援ツールなどの事例が報告されていた。

機関リポジトリについて

機関リポジトリは香港やタイでも取り組みが盛んである。特に開催校の香港科技大学は先端校であり、様々な取り組みがなされていた。主担当のK.T.Lam氏と直接会話でき、今後のコンタクトポイントとしても期待できる。香港科学技術大学も本学と同様に機関リポジトリのシステムとしてオープンソースのソフトウェアである「D-Space」を採用している

・図書館システムと機関リポジトリとの連携（博士論文データ等）について、本学と同様に目録データの流用を行っている事例があった。

■「最も協力的な海外の機関賞」を受賞

本学はこれまでHKIUGの場で3回（2001～2003）の発表を行い、今回、最も協力的な海外の機関賞（Most Supportive Overseas Institution Award）を受賞した。



■雑感

今回で私自身は、HKIUGへの参加が3回目となった。タイとフィリピンから初めて参加者があり、同じ海外からの参加者ということで話をする機会が多かった。香港はまさに東アジアのハブであり、どの国からもそう遠くなく参加しやすいとのことだった（ちなみに日本からは5時間程かかる）。

最後に余談であるが、香港といえば是非ワンタン麺を食べたいと思う方に耳寄りな情報。香港の空港内のファーストフード店（？）にワンタン麺があります。25香港ドルと少し高めですが、確かかつ安心（！）にありつけます。



「香港IUG10周年記念特別賞」各賞の受賞者たち（右端が鈴木）



図書館だより

中央図書館は4月より、平日午後10時まで開館しています

1. 開館時間延長のお知らせ

中央図書館は、これまで多くの利用者の方々より、開館時間を延長してより利便性を高めてほしいとの要望が寄せられていました。

このたび、ご要望に応え、授業期間中の平日は午後10時まで開館することとし、また授業期間中の日曜開館もこれまで以上に多く実施することにしました。各サービス時間の詳細は図書館ホームページをご参照下さい。

2. オンラインによるILL申し込みのお知らせ

昨年4月の中央図書館・理工学図書館に続き、所沢図書館も昨年8月からオンラインによるILL申し込み受付を開始しました。今年2月の統計では中央図書館の場合、ILL申し込み全体の57.5%がオンライン申し込みとなりました。国内他機関からの取寄せ件数に限定して比較すると、申込総数は昨年より増加しております。

Waseda-net Portalからの申し込み方法

Waseda-net portalにログインする システム・サービスをクリック 申請フォーム入力 受け取りを希望する図書館のILL申し込みフォームを選ぶ 氏名・依頼論文名などを入力 登録

3. オンラインによる購入希望図書申し込み

4月2日より、Waseda-net portal から図書に限り購入希望を受け付けるサービスを行っています。

申し込み方法は上記の サービスとおおむね同

様です。対象となる図書館(室)は中央図書館・戸山図書館・理工学図書館学生読書室・所沢図書館です。従来の「購入希望資料申込書」も引き続きご利用になれます。

4. オンラインによる整理中図書利用申し込み

昨年4月から、WINEの現況が「整理中」の図書の利用申込を、オンラインで受け付けています。申し込みがあった図書は優先的に整理し、予約取り置きするサービスです。整理が完了し、利用できるようになった時点で、Waseda-net portalのメールアドレスにお知らせが届く仕組みになっています。中央図書館・高田記念図書館・戸山図書館・理工学図書館・所沢図書館に配架される図書が対象となります。申し込み方法は左記の サービスとおおむね同様です。

Waseda-net portalの利用資格のない方は従来どおりレファレンスカウンターでご相談ください。

(文責：福本 宏子、高橋 宏)

〔表紙写真〕

人間万事虚誕計 式亭三馬作 歌川国直画
文化10年(1813)伊賀屋等版

人間のことにまじる「うそ」を的確にとらえ、うそとまことを鮮やかな手法で対照させた三馬独特の滑稽本。「愛想の好きウソ」「空辞儀のウソ」「風雅を好むウソ」「昔自慢のウソ」「ばあさまのウソ」「女をきらう若者のウソ」などよりなる。表紙、挿絵を描いた歌川国直(1793-1854)は、初代豊国門下の絵師で、草双紙の挿絵を数多く描いたことで有名。
早稲田大学古典籍総合データベース公開記念
「曲亭馬琴と江戸の文人たち」展から
へ13-833

所属名は原稿執筆時のもの

早稲田大学図書館報	ふみくら No. 75	2007 年 4 月 25 日発行	3,000 部

発行人/加藤哲夫 担当課長/金子昌嗣 編集委員会/芝田穂・福本宏子 発行/早稲田大学図書館 〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1 ☎5286-1652 (ダイヤルイン)			

ISSN 0289-8926